

# 本の森 3月号



丹波篠山市立中央図書館通信 No. 199 2022年3月1日 発行

今月の特集

## 世界へ！

3月6日は、日本航空が世界一周路線の営業を開始したことから、世界一周記念日に制定されました。

厳しい自粛生活が続きますが、せめて本の中だけでもスケールの大きな旅行を楽しんだり、様々な国の魅力にふれたりしてみたいはいかがでしょうか。

### 『いつかは行きたい 一生に一度だけの旅BEST500』

ナショナルジオグラフィック 著

日経ナショナルジオグラフィック社 290.93円



1888年に設立されて以来、世界中の感動と驚異を探し続けている非営利団体ナショナルジオグラフィック。旅のエキスパートといっても過言ではない同団体のライターや写真家たちが、厳選した旅が収められているのが本書です。

野生動物と出会う南アフリカのサファリ列車、名ワインの試飲ができるフランスのブルゴーニュ地方など、魅力的な目的地が「ドライブの旅」「歴史を味わう旅」などの項目ごとに並び、アルゼンチンのブエノスアイレスでタンゴを踊るなら閑散期の9月に行くと旅費が安くすむなど、役立つ情報も満載です。

ちなみに、日本からは京都や、大阪と奈良を結ぶ<sup>たけのうち</sup>竹内街道などが選ばれています。世界一周を目指す方から近場の魅力を再発見したい方まで、楽しんでいただける一冊です。

(西澤)





マークデザイン  
加藤昌男

## 文学の 棚から



# 『その日まで』

瀬戸内 寂聴 著 講談社 914.6セ

昨年99歳で天寿を全うされた寂聴さん。人を愛し、ペンを愛し、人生を謳歌した方でした。寂聴さんが一つだけ後悔していたことは、3歳の娘を置いて出奔したことだそうです。“行かないで！”も言えない幼い娘を置いてきたことは悔いても悔やみきれないと語っていました。

近年、秘書のまなほさんを執筆に導かれ、共著も出版されたことが話題となりました。世代やジャンルも問わない様々な人たちとの交流は、寂聴さんの人生のエネルギーと化していたかのようです。先日逝去された石原慎太郎氏の全集出版を後押しした経緯も語られ、きっと今ごろあちらで酌み交わしつつ語り合っているのではないのでしょうか。

本著は、雑誌『群像』2018～2021年に掲載されたものが書籍化されたもので、最期のエッセイ集となりました。たくさんの作品を世に遺して下さったことを感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。(小土井)

# 『公共図書館を育てる』

永田 治樹 著 青弓社 016.2ナ

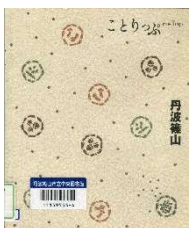
## 一般書の 棚から

本書はデータに基づいて、国内外の公共図書館について論じています。図書館を育てる具体的なヒントが書かれているのが、6章の未来の図書館研究所のシンポジウムの内容紹介の部分です。栃木県茂木町は、それまでの図書室から400メートル離れた新しい図書館までの本の引っ越しを町民が並んで手渡しておこなったそうです。北海道幕別町の図書館は、図書の購入および本の資料番号を貼付する過程を改めることで、地域経済への還流を生み出しています。日本のほとんどの図書館がこれまで当たり前としてきた前提を見直したことが画期的です。岩手県紫波町に新築された図書館も、地域の方がイキイキと過ごす場となっています。



図書館が地域活動の核となっている近年、地域の方や利用される方々の声と協力が、図書館をより良く育ててゆく基盤となっているようです。(栗田)

## 郷土資料の 棚から



「丹波篠山 ことりっぷ」  
(郷土) C7/00/タ

### 【たんばささやま「まめ」知識】

このコーナーでは、丹波篠山にまつわる本を紹介します。

新たな観光PR策として、2021年10月に全国発売された本書。コロナ終息後も見据えた効果的な観光情報の発信を狙い、市が出版社とタイアップし完成しました。「丹波篠山の城下町」「丹波篠山で出会うもの」「丹波篠山のおいしいもの」の3つのテーマには、本当におすすめしたいモノ・コトがぎゅぎゅっと凝縮して紹介されています。

市の若手職員らの提言で実現したガイド誌。市民にも丹波篠山の魅力を再発見してもらえたら・・・と関係者は語っています。(酒井)

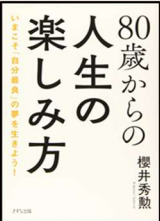


# Y onde Mite

よ ん で み て

『Y onde Mite』のコーナーでは利用者の方から寄せられたお勧めの一冊を掲載します

『80歳からの  
人生の楽しみ方』  
櫻井 秀勲 著 159.79 円  
2020.03 出版



「せっかく長生きしたのだから、もう少しこの世を楽しみましょう」という91歳の著者からのメッセージです。

ペンネーム 光の春

『「自由」の危機  
息苦しさの正体』  
藤原 辰史 ほか著 316.1 円  
2021.06 出版



権力の介入に異議申し立てをした研究者・作家等26人による緊急論考集。日本の現状に慣れてしまっているといけないと呼びかけている。

ペンネーム 周五郎ヴァン

『松下幸之助の神言葉50  
こんな時代だからこそ学びたい』  
江口 克彦 著 335.04 円  
2021.11 出版



23年にわたり松下幸之助の側近として働いてきた著者が「成功の法則」を語り合いの形を借りて綴った本。まさに今、おすすめ！

ペンネーム ふき路の臺

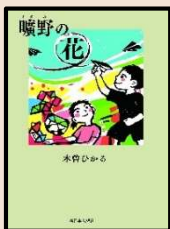
『エール  
名もなき人たちのうた』  
朝倉 宏景 著 Fアサ  
2021.10 出版



戦力外通告をうけた元プロ野球選手。再就職した社会人野球チームのある飲食産業をコロナ禍が直撃！

ペンネーム あられもち

『曠野（あれの）の花』  
木曾 ひかる 著 Fキノ  
2021.08 出版



名古屋市役所に39年間勤務した著者が、この国の貧困問題をリアルに見つめて綴った8篇の物語です。

ペンネーム あまびえ

『ママがもう  
この世界にいなくても』  
遠藤 和 著 916 円  
2021.12 出版



21歳でステージ4の大腸癌と宣告された著者。22歳で結婚23歳で出産、24歳で亡くなる。1歳の娘と夫に残した「愛」の記録。

ペンネーム くろまめ



# 映画上映会のお知らせ

入場無料  
申し込み不要

## 「紅いコーリャン」

1987年・中国 92分・日本語字幕

■監督 チャン イーモウ 監督

■出演 コンリー 他 出演

■日時 3月11日(金) 14:00~15:40  
3月12日(土) 15:00~16:40

■場所 中央図書館 視聴覚ホール

1920年代末の中国山東省。九児(チウアル)は、ラバ1頭で父に売られ、親子ほど年の離れたハンセン病を煩う造り酒屋の男のもとに嫁ぐことになる。途中、彼女は強盗たちに襲われるが、御輿の担ぎ手・余占鰲(ユイチャンアオ)に救われる。やがて夫が行方不明となり、造り酒屋を継いだ九児は余と結ばれ、子どもが生まれるが、そこに日本軍の侵略の魔の手が…。

## 図書館カレンダー



## 行事予定

日	月	火	水	木	金	土
		1 休	2	3	4	5
6	7 休	8	9	10 図書館の日	11	12
13	14 休	15	16	17	18	19
20	21	22 休	23	24	25	26
27	28 休	29	30	31 休	祝卒業!	

### 【中央図書館】

- ★ 毎月10日は丹波篠山だけ図書館の日  
全館 : 3/10(木) 終日
- ★ 「景観コンクール展」  
展示ホール : 3/3(木) ~ 3/11(金)
- ★ 「農についての絵画展」  
展示ホール : 3/11(金) ~ 3/25(金)
- ★ 「映画上映会」  
視聴覚ホール : 3/11(金)・12(土)

※各種イベントは状況により行わない場合があります。ご了承ください。



## 「読みたい本探します」

お探しの本が図書館にないとき、「リクエスト」という制度をご利用いただけます。

- ★ 国立を含む県内外他図書館からの借り受け、もしくは購入を検討し提供させていただきます。(送料をご負担いただく場合があります)
- ★ リクエストは購入の可否に関わらず、利用者カード名義人様1ヶ月10冊の範囲内でご利用いただけます。(ただし、在住・在勤・在学の方に限ります)
- ★ 購入図書につきましては、限られた予算の中で、幅広くご利用いただける図書をバランスよく所蔵していく必要があるため、収集方針・類書の兼ね合い等も含めて検討いたします。ご了承ください。
- ★ 手配したリクエスト本のキャンセルはできません。取り置き期間中に必ずご来館ください。
- ★ 雑誌・CD・DVDについてのリクエストは、お受けできませんのでご了承ください。

※ご不明な点はカウンター職員までお申し付けください。